



新潟病院・在宅ケア新潟クリニック 主な診療スタッフ

<病院長>戸谷 収二		<副院長>大越 章吾、佐藤 聡、田中 彰	
●診療科	●科 長	●医 長	●特殊外来
総合診療科	海老原 隆	水橋 亮	白い歯外来
口腔外科	戸谷 収二	関 秀明	スポーツ歯科外来
歯科麻酔・全身管理科	大橋 誠	小林英三郎	いき息さわやか外来
小児歯科	三瓶 伸也	—	あごの関節・歯ぐきり外来
矯正歯科	太田 信	—	口のかわき治療外来
放射線科	小椋 一朗	—	歯科アレルギー治療外来
訪問歯科口腔ケア科	白野 美和	—	歯科鎮静リラックス外来
口腔インプラント科	廣安 一彦	—	顎のかたち・咬み合わせ外来
内科	大越 章吾	—	M R O N J 外来
外科	大竹 雅広	—	歯の細胞バンク外来
耳鼻咽喉科	佐藤雄一郎	—	禁煙外来
●センター	●センター長	●室 長	●特殊外来医長
長寿医歯連携医療センター	大越 章吾	地域医療連携室	海老原 隆
障害児・者歯科センター	三瓶 伸也	小根山隆浩	渥美陽二郎
睡眠歯科センター	猪子 芳美	●院 長 ●科 長	高塩 智子
口腔ケア機能管理センター	吉岡 裕雄	在宅ケア新潟クリニック	水橋 史
		田中 彰	中谷 佑哉
		高田 正典	小根山隆浩
			大橋 誠
			水谷 太尊
			小林英三郎
			大越 章吾
			道川 誠

■ 電話・FAXによる事前予約のお願い

日頃より本院の地域歯科医療連携業務につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
 本院では患者様の待ち時間短縮と患者サービス向上を目的とし、FAXによる事前予約システムを導入しております。事前予約のない新患者様の待ち時間が長くなることがあり、ご迷惑をおかけしております。
 紹介患者様の待ち時間を短縮した円滑な診療を目的に、是非ともFAXによる事前予約をご利用くださいますようお願い申し上げます。なお、患者様からの直接電話予約も受け付けております。(該当の診療科受付に
 お電話ください。)

また、口腔外科に抜歯および外科処置目的でご紹介いただいた場合、原則として即日抜歯・即日外科処置は施行していません。(緊急時はこの限りではありません。) 初診日は、診査・診断のみとなりますので、あわせてご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室

TEL / 025-211-8228(歯科)
 025-211-8257(医科)
 FAX / 025-267-1546



地域医療連携室
 室 長 / 小根山隆浩
 看護師 / 神田 明
 事務 / 本間 未来

編集後記

■ コロナが5類に移行したことで様々なイベントが再開されていると思いますが、正直なところ、コロナ禍でなまっていた体を元に戻すのに大変苦労している状況です。これもコロナの副作用なのかもしれません。
 今回は、地域包括ケアシステムの一環として、リハビリテーション専用の機能訓練室を開設いたしましたのでご紹介させていただきます。令和6年度も引き続き宜しくお願い申し上げます。(小根山)



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol.51
 2024.6.1

発行日 / 令和6年6月1日 発行人 / 戸谷 収二
 〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
 TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(連携室直通)

日本歯科大学新潟病院と地域医療をむすぶ

Vol.51
 2024.6.1



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

睡眠歯科センター長に就任して



睡眠歯科
 センター長
 猪子 芳美

河野正己名誉教授の後任として2022年8月より睡眠歯科センター長に就任致しました猪子芳美でございます。

新潟病院 睡眠歯科センターは、2000年に『いびき診療センター』として新潟病院2階にて診療を開始し、2011年4月より新潟病院1階へ移転しました。新外来への移転に伴い、『いびき診療センター』から『睡眠歯科センター』と改称して診療を行っております。「睡眠歯科」とはDental Sleep Medicineの和訳で、睡眠医学で歯科に特化した診療や研究を行う分野です。当センターは、(社)日本睡眠学会専門医療機関として認定を受けており、新潟県内でこの認定を受けている歯科医療機関は2024年現在当センターのみです。いびき症や睡眠時無呼吸症候群はもとより、歯ぐきり症(ブラキシズム)などの睡眠関連運動障害など歯科疾患に起因した睡眠障害についても診療を行っております。

終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)につきましては、新型コロナウイルス感染症による入院制限など諸事情により、検査の出来ない日々が続きました。しかし、2023年5月の「5類感染症」移行後は、PSG検査室および検査機器を新たなものとし、PSG検査を再開しております。患者様の病態および口腔咽頭手術や口腔装置などの治療効果の正当な評価のために、当センターにPSG検査をご依頼いただきたく存じます。

また治療につきましては、nCPAPと口腔装置(マウスピース)との併用療を医科部門協力のもとで行っており、nCPAP治療継続に対して一定の成果をあげております。nCPAP治療の継続に難渋している症例などは、口腔装置併用療法にて介入させていただくと幸いです。

新潟病院睡眠歯科センターは、患者様に信頼され、安心・安全で良質な睡眠医療を提供するため、これからも精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



当院のリハビリテーション ～「機能訓練室」開設について～

●耳鼻咽喉科学
理学療法士
松本香好美



●耳鼻咽喉科学
言語聴覚士
高橋 圭三



●耳鼻咽喉科学
教授
佐藤雄一郎



◆はじめに

当院では地域包括ケアシステムの一環として多職種によるリハビリテーション委員会を立ち上げ、摂食嚥下、運動器、呼吸器リハビリテーションなどに取り組んでいます。今回、リハビリテーションのための「機能訓練室」を開設いたしましたので、当院の取り組みと併せてご紹介させていただきます。

◆当院のリハビリテーションについて



●写真1：機能訓練室

2024年2月に日本歯科大学新潟病院として初めて、リハビリテーションを目的とした機能訓練室を開設しました(写真1)。場所は病院1階の医科外来です。機能訓練室は、運動器や呼吸器リハビリテーション用のプラットフォームや平行棒などの設備と(写真2)、言語聴覚士による摂食嚥下リハビリテーション用のスペースも併設しました。

また、機能訓練室開設に併せて、診療報酬上の施設基準の申請も行い、2024年3月からは「運動器リハビリテーションⅢ」と「呼吸器リハビリテーションⅡ」が

算定できるようになりました。

運動器リハビリテーションの対象者は、関節の変性疾患、関節の炎症性疾患、その他の慢性運



●写真2：室内

動器疾患により、一定程度以上の運動機能及び日常生活能力の低下を来している方々が対象となります。現在、当院で運動器リハビリテーションを行う対象は、主として口腔癌による頸部郭清術後の肩関節機能障害症例です。また、呼吸器リハビリテーションは、肺炎やCOPDなど慢性呼吸器疾患による呼吸困難例や咽頭・喉頭癌等の手術前後の呼吸機能訓練が必要とされる症例に行っています。

当院のリハビリテーションセラピストは理学療法士(以下PT)1名、言語聴覚士(以下ST)1名で構成され、患者様の社会復帰を目標に個々に合ったリハビリテーションプログラムをオーダーメイドで作成して実践しています。(写真3)。PTは主に機能障害に対するアプローチや基本動作練習、歩行練習、ADLトレーニングを行っています。一方、STは口腔癌や脳の疾患などによる発声や発音、飲み込みの障害に対して、検査や訓練、助言などを行っています(写真4)。

これまで歯科領域において、歯科医師がSTと連携して嚥下訓練を行うことはありましたが、PTが参画する場面はほとんどありませんでした。超高齢社会となり、高齢者の健康寿命延伸が求められると同時に、口腔だけでなく全身のリハビリテーションや栄養も含めた包括的な取り組みが必要になってきています。当院でも、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、ST、PTなどの多職種によるカンファレンスを実施しリハビリテーション実施計画を立案しています。対象となるご本人様やご家族様へは実施計画の内容を丁寧にご説明するとともに、チームで連携しながら患者のニーズに寄り添った医療を提供したいと思えます。

◆最後に

RehabilitationはRe(再び)、Habilis(適する)が組み合わされたラテン語のRehabilisが語源とされ、人が再び適した状態になること、言い換えれば普段の生活を失った患者さんが今までの自分らしく生きることを意味すると考えています。われわれは、そのような方々を本学特有の強みである機動的な多職種連携でサポートする所存です。



●写真3：歩行練習



●写真4：ST評価